

令和8年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画			
学校運営方針		「人は適切な環境と関わりの中で成長する」という信念のもと、カリキュラム全体を通して、生徒への丁寧な指導・支援と対話を重ねるなかで、生徒一人ひとりが夢と希望を抱き、自立に向けて輝いていく学校づくりを組織的に力強く推進する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)			
グラデュエーション ポリシー (GP) (育成を目指す資質・能力に 関する方針)	～Well-Beingな生き方をこれから到来する“変化の激しい時代”においても持続可能にしていくために、卒業時まで次の5つの資質・能力の育成を目指します～ 【精神的な自立】・自分に向き合って、自分で自分を成長させていける力を育みます。 【社会的な自立】・当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。 【経済的な自立】・将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。 【希望への輝き】・夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。 【ゆたかな情操】・他者への思いやりと敬意を基本に、他者とのかかわる力を育みます。		
カリキュラム ポリシー (CP) (教育課程の編成及び実施 に関する方針)	～生徒の「自立」支援に向け、①から順番に⑥までを積み上げる教育を行います～ ①【安全・安心な空間】・生徒一人一人が、自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。 ②【自己存在感の感受】・生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。 ③【学びの価値の実感】・生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。 ④【PDCAサイクル】・生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向けてえ、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。 ⑤【教育資源有効活用】・生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。 ⑥【自己決定する機会】・生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。		
アドミッション ポリシー (AP) (入学者の受入れに関する 方針)	～無限の可能性を秘めた生徒一人一人を“教育の力”で確実に伸ばし、Well-Beingな生き方を目指すためにも、次のような生徒として本校に入学してくることを期待します～ 【本校の理解】・本校の教育目標に価値を見出し、本校で頑張りたいと考えている生徒 【自他の尊重】・みんなが気持ち良く学校生活を過ごせるように、自他を尊重する生徒 【希望と抱負】・学校生活における様々な体験を通して、仲間と情緒的な交流を図り、人間力を育みたい生徒		
昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
【成果】 問題認知時対応委員会を新設したことで、多様な生徒への指導・支援を組織的に対応できた。また、本校の教育実践による成果を県内外に向けて広く情報発信できた。 【課題】 プロアクティブへの組織対応が弱かったため、R8年度は魅力ある学校づくり委員会の機能強化と外部連携の支援強化を図る。	[A] ◆カリキュラム・マネジメントの 充実	1) スクール・ポリシーを理解し、共有し、実践する。 2) 安全・安心な学習環境・教育環境をつくり出す。 3) 教科指導（授業）の質的向上を図る。 4) 「総合探究」「自己探究」の指導を体系化する。 5) 日々の中でキャリア形成を図る指導を充実させる。	
	[B] ◆生徒指導・支援教育の充実	1) 生徒指導・支援の組織体制を図る環境構築を図る。 2) 魅力あるプロジェクトチームの取組を充実させる。 3) 魅力ある学校づくり委員会の取組を充実させる。 4) 問題認知時対応委員会でSOS生徒の支援を図る。 5) 保護者との連携・協働と保護者支援に務める。	
	[C] ◆開かれた学校づくりの 促進	1) 出雲崎町との包括連携協定、及び同窓会・後援会の機能を活かし教育活動・教育環境の質的向上を図る。 2) 本校から外部に向けて積極的な情報発信を図る。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価

[A] カリマネ 学習指導要領に基づく指導の充実	1) S P の理解・共有・実践	① 年度当初にスクール・ポリシーを確認・共有し、本校の教育の全体像を俯瞰する。		
		② あらゆる教育活動をスクール・ポリシーの視点で捉える学校文化を組織的に育む。		
	2) 安全・安心な生活環境・学習環境の充実	① 毎日、教師側から、生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話を図る。		
		② 毎月、年次目標を設定し、生徒・職員で共有し、その達成を図る。		
		③ 教育活動全体を通して、生徒に規則遵守と仲間への思いやりを醸成する。		
		④ B-SAFEの結果に基づき、学校風土の改善に向けた具体的な取組を行う。		
		⑤ 生徒が他者の人格や人権をおとしめる言動をとれば即時的に指導を行う。		
	3) 教科指導（授業）の充実	① 各単元や各授業のはじめに、生徒に向けて目的と目標と評価規準を示す。		
		② 教師が「学びのファシリテーター」として、ICTを活用した個別最適化を図る。		
		③ 授業で生徒が探究を楽しむように「問い」を中心に授業を構成する。		
		④ 授業中に、生徒の自己指導能力を育む形成的評価を積極的に行う。		
		⑤ 授業中に、生徒同士の知識・思考・感情の交流を図る場面を設ける。		
		⑥ 授業の終わりに、指導と評価の一体化に向け、振り返り場面を設ける。		
		⑦ 授業互見を教職員全体で行い、授業力の向上を支え合い、高めあう。		
	4) 「総合的な探究の時間」及び「自己探究」の充実	① 自己指導能力の育成（「自分のトリセツ」づくり）を目的に指導を図る。		
		② 授業での気づきを自己成長を図る行動計画に転化させ、取り組ませる。		
		③ ストレスマネジメント、アンガーマネジメント、アサーション等のスキルを指導する。		
		④ 人間関係のトラブルが発生の際、学んだスキルが生きて働くように活用させる。		
		⑤ 深い自己理解を図るように指導し、社会と繋げて生き方を考えさせる。		
		⑥ プランキャンパスの指導内容を日々の取組に汎化させ、生徒に定着させる。		
⑦ 自己の進路決定の際、これらの授業で学んだ各種のスキルをフル活用させる。				
5) 生徒が日々の中で主体的にキャリア形成を図る様な指導の工夫と充実	① 自己課題に向き合い「自分のトリセツ」を改善するように取り組ませる。			
	② 習慣化したいルーティン行動を目標として設定させ、粘り強く取り組ませる。			
	③ 多くの生徒に部活動参加を促し、仲間と努力する楽しさを体験させる。			
	④ 多くの生徒に資格試験の受検を促し、粘り強く学ぶ楽しさを体験させる。			
	⑤ 多くの生徒にボランティア活動の参加を促し、社会貢献の楽しさを体験させる。			
	⑥ 多くの生徒に主体的な企業見学やオープンキャンパス参加を促し、積極性を育む。			
[B] 生徒指導 生徒支援 生徒指導提 要に基づく 取組の充実	1) 生徒指導・生徒支援の組織体制を図る環境構築	① 職員研修を系統的に組み立て、教員の指導力向上を図る環境を整える。		
		② アセス・B-SAFE等のアンケートを実施し、SOS生徒を明確化し、共有する。		
		③ 生徒指導・生徒支援ツールを入手・準備・管理し、必要組織に配付する。		
		④ スクールカウンセラーと教職員との情報交換・意見交換を図りコンサルテーションに繋げる。		
	2) 魅力あるプロジェクトチームの取組	① 指定したプロジェクトをG Pの達成の視点から関係職員で検討を図る。		
		② プロジェクトチームの検討結果を職員で共有し、教育の改善に繋げる。		
	3) 魅力ある学校づくり全体会の取組	① 身近な教育課題を研修し“学び続ける教職員集団”の文化を維持する。		
		② 研修（OFF-JT）をスクール・ポリシーの理解に繋げ、学びを実践（OJT）に繋げる。		
		③ 生徒情報のアセスメントに基づく教育改善に向けた具体的方策を検討する。		
	4) 問題認知時対応委員会の取組	① 教職員が問題行動生徒やSOS生徒を発見の際、必ず1次判断に繋げる。		
② 委員会はホワイトボードミーティング形式（1事例＝1コマ以内）で運営をする。				
③ 観察結果とアセスB-SAFE等に基づくアセスメントを用い、指導・支援策を作成する。				
④ 積極的に医療機関や市町村福祉機関や警察等に報・連・相を図る。				
⑤ 生徒自身が自己変容を図れるように、中・長期的な指導・支援も行う。				
5) 保護者との連携・協働・支援	① SOSを発している生徒の保護者ニーズを把握し、連携・協働を図る。			
	② 家庭教育の支援に向け、保護者向けの講演会と研修会を開催する。			
[C] 開かれた 学校づくり	1) 包括連携協定及び同窓会・後援会の積極的活用	① 包括連携協定を用いて同窓会・後援会と本校の取組のネットワークを構築する。		
		② 地域社会の多様なリソースを活用し、教育活動・教育環境の質を高める。		
		③ 地域社会のニーズを学校が取り入れ、生徒の社会性の育みに繋げる。		
		④ 学校のニーズを地域社会に伝え、地域からの教育支援を活用していく。		
2) 本校からの積極的な情報発信	① 本校の教育システム等を県内外の教育関係者に向けて情報発信していく。			
	② ホームページで授業・部活動の取組、学校行事、職員研修等を紹介する。			
成果			総合評価	